

大阪産業創造館ネットモニター調査 -No.29 '14年12月期-

(ご協力いただいたモニター数: 173社、調査時期: 2015年1月8日～15日)

公益財団法人 大阪市都市型産業振興センター 経済調査室
1/21 <http://www.sansokan.jp/tyousa/> tel:06-6264-9816

《12月の景況判断に関する要点》

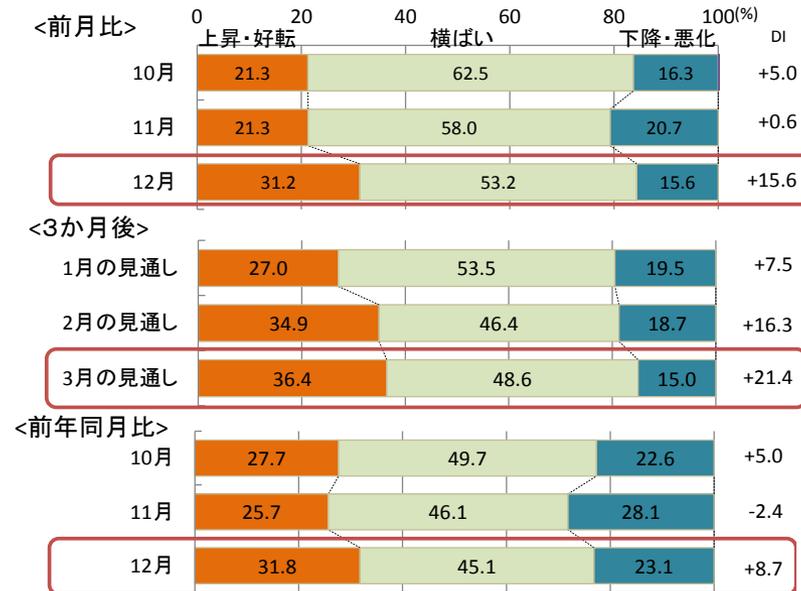
「年末需要もあいまって、景気は力強い回復の動き」

- ・12月の景況(前月比)をみると、「上昇・好転」とする回答の割合は9.9ポイント増加、「下降・悪化」は5.1ポイント減少し、DIは15.0ポイント上昇し+15.6(図1)。業種別では、製造業のDIは17.0ポイントの上昇により+13.6、非製造業は14.0ポイント上昇し+16.7(図なし)。
- ・[上昇・好転]した主な理由は、「時期的、季節的な要因」が5割強で最多、次いで「内需が増大したから」が3割強(図なし)。
[下降・悪化]した理由は、「時期的、季節的な要因」が3割強、「内需が減少したから」が3割(図なし)。
- ・3ヵ月後(2015年3月)の見通しは、今月(12月)と比べて「上昇・好転」が増加、「下降・悪化」が僅かに減少、3月のDIは今月よりも5.8ポイント高い+21.4の見通し(図1)。
- ・12月の前年同月比は、「上昇・好転」は6.1ポイント増加、「下降・悪化」は5.0ポイント減少となり、DIは11.1ポイント上昇し+8.7(図1)。13年12月は消費増税前の駆け込み需要による景気浮揚期間であり、その時点との対比で相当にプラスな状況は回復が力強い証左。

《中小企業の人手不足状況について》(図2)

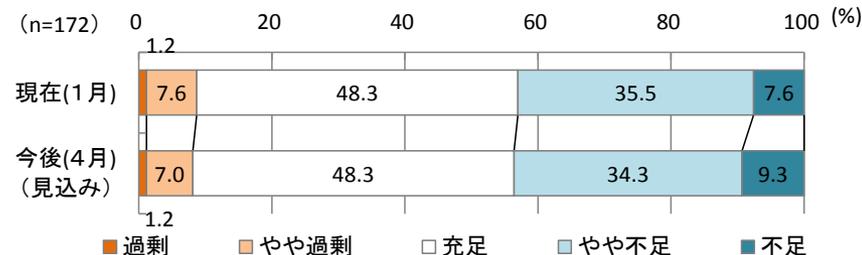
- ・年末退職期を経た1月と退職/採用時期を経た4月の2時点を想定して、人手不足の状況を調査した結果、差異は殆ど見られず、むしろ僅かに「不足」が高まる結果となり、不足が持続する見通し。
- ・全体としては、過不足のない「充足」がともに5割弱で問題はないが「やや不足」を含めた不足気味な企業が4割余りにも達しており、問題の深刻さを示唆している。他方、過剰気味は1割弱に過ぎず、僅かに減少する見通しであり、改善の動き。
- ・今後、積極採用方針の企業は不足気味が7～8割と多数を占める。

図1 景況判断

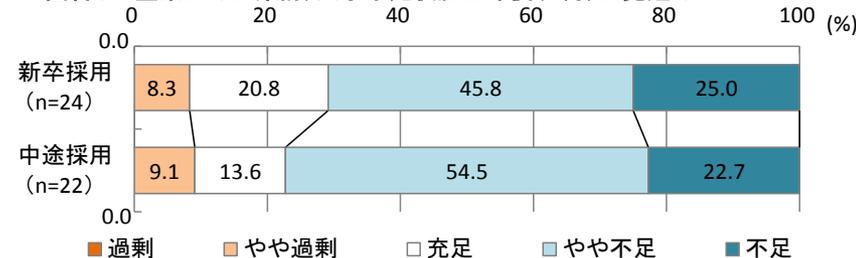


* DI(Diffusion Index)「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

図2 現在(1月)と今後(4月)の人手不足状況について



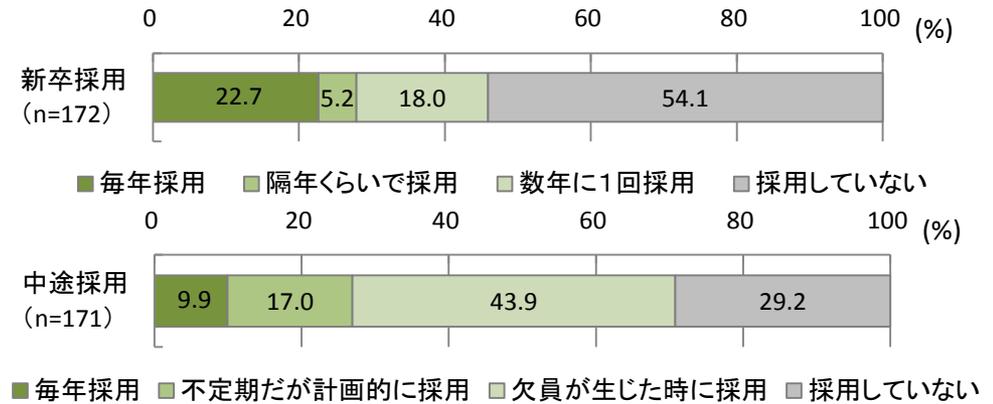
※(図4で今後の採用方針を「これまでよりも積極的に採用する」と回答した企業のみを集計)人手不足状況の今後(4月)の見込み



《社員の採用(新卒、中途)の近年の実績》(図3)

- ・新卒採用では、5割半ばの企業が「採用していない」状況、以下、「毎年採用」が2割強、「数年に1回採用」が2割弱で、この3パターンで殆どを占める。
- ・中途採用では、「欠員が生じた時に採用」が4割強で最多、以下、「採用していない」が3割、「不定期だが計画的に採用」が2割弱で、「毎年採用」は1割に過ぎない。
- ・クロス集計からは、新卒を「毎年採用」している企業でも中途は「欠員が生じた時に採用」が5割弱と多い、新卒を「採用していない」企業でも中途は「欠員が生じた時に採用」や「不定期だが計画的に採用」などが半数近くに達する。

図3 社員の採用(新卒、中途)の近年の実績



《今後の採用方針(新卒、中途)》(図4、表1)

- ・今後の採用方針に関しては、「未定／わからない」が新卒、中途ともに1/4を占めるが、それ以外では方針がやや異なる。具体的には、中途では「これまでと同程度に採用」が3割強と突出して多いが、新卒ではその割合は2割半ばに減少し、「採用しない」と同程度である。「これまでよりも積極的に採用」は新卒、中途ともに1割余りに過ぎず、総社員数の増加を積極的に推進する企業は少数派。
- ・クロス集計からは、新卒で「これまでと同程度・・・」とする企業は中途でも「・・・同程度・・・」とする割合が多いなど、「未定」や「採用しない」を含めて、新卒と中途で同一の方針を取る傾向が見られる(表1の白地の対角線)。
- ・ただし、中途に関して「これまでよりも採用を控えるがゼロではない」とする消極派企業でも、新卒に関しては「・・・同程度・・・」とする企業の方が僅かに多いことや、同様に、中途で「・・・同程度・・・」とする企業でも、新卒に関しては「これまでよりも積極的・・・」とする割合が2割弱を占めるなど、総じて、新卒、中途ともに今後も採用する方針の企業では、中途よりも新卒を重視して採用する傾向が確認される(新卒重視派:20社VS 中途重視派:8社)(表1)。

図4 今後の採用方針(新卒、中途)

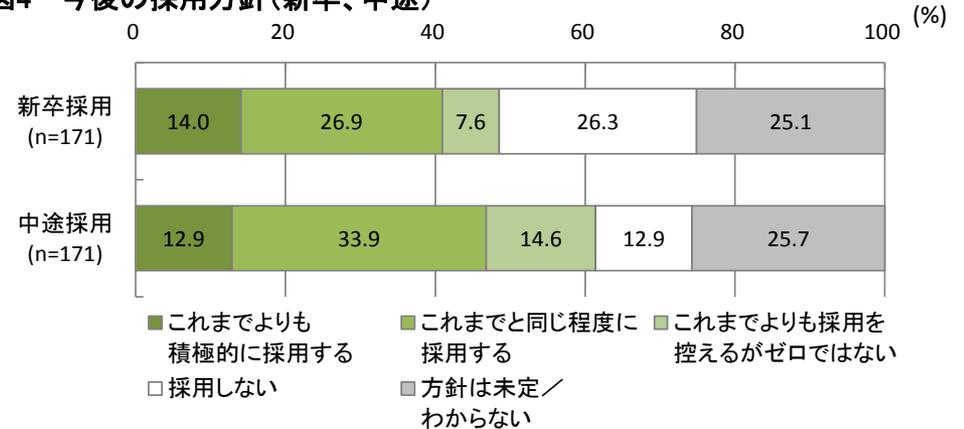


表1 今後、新卒、中途ともに採用する意向の企業における採用方針

| 中途採用 \ 新卒採用 | これまでよりも積極的に採用する | これまでと同程度に採用する | これまでよりも採用を控えるがゼロではない |
|----------------------|-----------------|---------------|----------------------|
| これまでよりも積極的に採用する | 11 | 10 | 2 |
| これまでと同程度に採用する | 3 | 32 | 8 |
| これまでよりも採用を控えるがゼロではない | 3 | 2 | 7 |

新卒採用に、より積極的(20社)
 中途採用に、より積極的(8社)

《社員の採用に際して活用した機関・メディア》(図5)

- 企業は社員の採用に際して、種々の機関やメディア(以下、“手段”)を活用するが、その状況を調査した。この結果、新卒では平均して2.6個の手段を、中途では1.9の手段を活用しており、「学校」がある分、新卒の方が多いがそれを除くと同程度である。
- 新卒採用では、「学校」の活用割合が6割弱で最多であるが、“かつては活用…、今はしていない”割合も1/4を占め、「縁故・友人・知人」に次いで多い
- 「学校」以外は新卒、中途で共通であり、傾向は比較的類似している。活用率が最多の手段は「ハローワーク」であり、ともに5割強。第2位、第3位は新卒と中途で順序が逆となるが、「縁故…」と「求人専門サイト」であり、他の手段とは開きがやや大きい。すなわち、新卒では共に4割前後であるが、中途では「縁故…」が5割に対して、「…サイト」は3割弱と格差が大きい。
- 「有料求人情報誌」、「民間職業紹介所」は新卒、中途共に2割前後で、撤退率は5割前後で多め。
- 「折込チラシ」、「フリーペーパー」の紙媒体は新卒、中途共に活用率は約1割で、撤退率は6割前後で多い。

《採用に際して、今後、最も重視する手段》(図6)

- 総じて、図5の活用割合の多さに相似する構成比となるものの、新卒では「求人専門サイト」の重視姿勢が高まり、中途では「民間職業紹介所」重視の傾向。
- 新卒では「学校」が4割弱(83社中の31社)で突出。
- 新卒で「学校」以外とする企業の構成比を中途採用の構成と対比すると、「…サイト」の位置づけが相当に異なる。すなわち、新卒では3割弱が「…サイト」を挙げ、第1位であるのに対して、中途では「ハローワーク」が4割弱、「縁故…」が3割弱の順で、「…サイト」は1割弱に過ぎない。また、中途では「民間職業紹介所」が1割半ばとそれなりに重視されている。

図5 社員の採用に際して活用した機関・メディアと効果を踏まえた撤退率
※図3で「採用していない」と答えた人以外

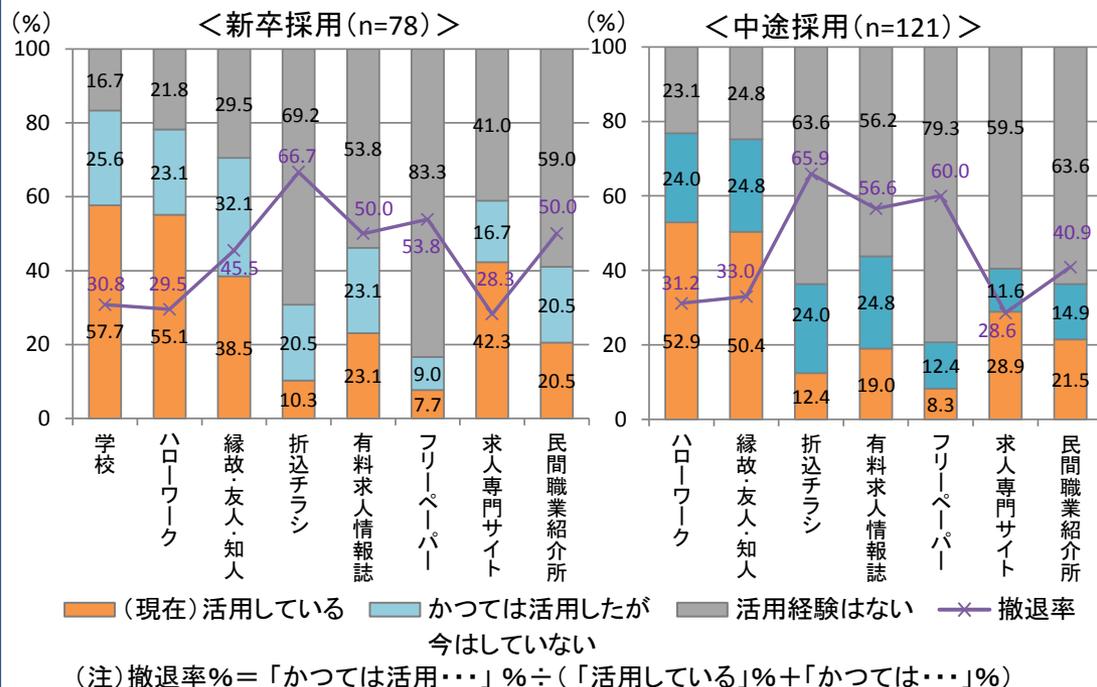


図6 採用に際して、今後、最も重視する(頼りにしている)機関・メディア
※図4で「採用しない」「方針は未定/わからない」と答えた人以外

